# 令和元年度第１回長崎市総合教育会議　会議録

１　日　　時　　令和元年８月 23 日（金）15 時 00 分～16 時 30 分

２　場　　所　　第二応接室（市役所本館３階）

３　出 席 者　　【市長】
田上市長
【教育委員会】
橋田教育長、坂本委員、小原委員、吉松委員、野本委員

４　事 務 局　　【市長部局】
企画財政部長、企画財政部政策監、都市経営室長、同室主幹、
同室係長
こども部子育て支援課課長補佐、同課企画係長、同課主事
同部幼児課課長補佐
中央総合事務所生活福祉２課長、同課主任
【教育委員会事務局】
教育総務部長、総務課長、同課総務係長
同部生涯学習課長、市立図書館長
学校教育部長、同部学校教育課長、生徒指導係長、同課主任指導主事

５　次　　第
（１）開会
（２）内容
①報告事項
ア　令和元年度の開催計画について
イ　令和元年度子どもに関する新規・拡大事業について
ウ　長崎県子どもの生活に関する実態調査及び平成 31 年度
全国学力・学習状況調査の報告について
②意見交換事項　今後のテーマについて
（３）閉会

６　議　　事　　以下のとおり

| | |
|---|---|
| | 【15：00 開会】 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | ただいまから、令和元年度第１回長崎市総合教育会議を開催します。配付しております次第に沿って、市長から進めさせていただきます。 |
| 市　　長 | 令和元年度初めての総合教育会議です。前回、これからどういう年間スケジュールで進めていくかについて意見交換させていただき、なるべく年度ごとに少しずつでも前進や成果が得られる形にしようということで合意させていただきました。<br>今日は、今年度どういうテーマを議論していくかについて、それがメインのテーマにもなると思います。<br>意見交換の前に、報告事項がありますので、次第２の（１）報告事項から始めたいと思います。まず、アの令和元年度の開催計画について、事務局から説明お願いします。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 令和元年度の開催計画についてご説明いたします。資料１「長崎市総合教育会議の開催計画について」をご覧ください。<br>表の下段「令和元年度の開催計画について」に記載のとおり実施したいと考えています。今回は、令和元年度の子どもに関する新規拡大事業についての報告を行い、次に、長崎県が平成30年度に実施した子どもの生活に関する実態調査の結果と平成31年度全国学力・学習状況調査の結果を報告をさせていただきます。次に、意見交換事項として、次回を9月から10月の間に開催をしたいと予定していますが、テーマについてご意見をいただきたいと思います。そして、2月にこれまでテーマとして意見交換をしてきたキャリア教育の状況についての授業見学と意見交換を行いたいと考えています。3月には令和2年度に予算化した事業の報告と次年度の取り組みに向けた内容となる議題の選定を行う予定としております。<br>次に、裏面をご覧ください。これまで4回にわたって意見交換を行ってきましたキャリア教育の今後の展開ですが、現在、総合教育会議において取りまとめた考え方と体系図、名称「長崎ＬＯＶＥＲＳ育成プログラム」を市のキャリア教育の考え方として位置づけ、そのための意思決定の手続を行っているところです。今後、まず庁内で周知を図ることと、各部局が一体となって何かこちらの関連事業を進めていくということで考えております。また、学校、家庭、地域で広く浸透を図るということで、地域コミュニティ連絡協議会などの集まりで周知を行いたいと考えております。<br>今年度は、国際的視野に立つリーダーを育成するため、各中学校の代表を対象に観光地でのおもてなし英会話の実践と、国際的に活躍している方 |

| | |
|---|---|
| | の講演を行う「あじさいグローバルリーダー研修会」と、市内全ての小学５、６年生を対象とした、自分たちができるまちづくりを考え発表する「まちづくりアイデアコンテスト」などを予算計上しています。説明は以上です。 |
| 市　　長 | 今の開催計画の説明について、ご質問やご意見等ありましたらお願いします。<br>では、今の計画をベースに次に進みたいと思います。<br>次第２の（１）「令和元年度子どもに関する新規拡大事業について」です。これは今年度予算の中に反映されている事業がどういうものかということです。事務局から説明をお願いします。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 資料の２、令和元年度子どもに関する予算の主な内容をご覧ください。<br>今年度の当初予算は骨格予算のため、当初予算とあわせて6月の補正予算に計上した事業を報告いたします。資料1ページから3ページは、当初予算に計上した新規拡大事業です。5ページから7ページは、6月補正予算に計上した子どもに関する事業です。9ページからはこれから4年間で取り組む重点プロジェクトを添付しております。<br>10ページをご覧ください。これから4年間は特に若い世代を意識した中で「選ばれるまちになる」ということをテーマに掲げ、新しい6つのプロジェクトに取り組んでいます。その中でも、子どもに関連する取り組みとしては、こども元気プロジェクトでございます。<br>詳細は資料12ページです。こども元気プロジェクトは親子の遊び場をつくるため、「あぐりの丘」に子どもが遊びながら成長できる全天候型の子ども遊戯施設を整備すること。それから、長年懸案となっている子育てを支援するための「こどもセンター」をつくるため、その機能や設置場所について具体的な検討を進め、こどもセンターの基本構想・基本計画を策定することに取り組みます。<br>資料5ページ、市長部局分について説明させていただきます。左端に星印をつけている事業が、先ほど説明したプロジェクトの関連予算です。<br>6ページをご覧ください。新規拡大事業の主なものとしては、資料33番の「健康診査費、３歳児健康診査費」です。こちらは、３歳児健康診査における眼科検査について、弱視の原因となる屈折異常等を早期発見するため、検査機器導入にかかる経費を計上するものです。<br>次に、資料 53 番の「単独交通安全施設整備事業費、園児等移動経路研究安全対策」ですが、保育園児や小学生が移動する経路の点検及び危険箇 |

| | |
|---|---|
| | 所の緊急安全対策を実施するものです。　説明は以上です。 |
| 市　　長 | 令和元年度の新しい、あるいは、より充実した事業についての説明でしたが、ご質問等ありましたらお願いします。<br>少し補足しますと、先ほど説明がありました 12 ページの上段のこども元気プロジェクトの「親子の遊び場をつくる」について、雨の日に子どもを遊ばせる場所がないということで、あぐりの丘の中につくろうということですが、この資料はあぐりの丘と指定した書き方になっていますが、実際には、市内のほかの場所にも違った形で子どもを遊ばせる、子どもが遊びで成長できるような場所をつくれないかということも検討しています。その辺は少し具体的になってきたら、また、皆さんにお知らせすることになると思いますが、あぐりの丘だけではないということだけはお話ししておきたいと思います。 |
| 委　　員 | あぐりの丘の子どもの遊び場の対象は主に幼児ですか。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | あぐりの丘では幼児から小学生ぐらいまでを遊ばせることができる施設にしたいと考えております。 |
| 市　　長 | これは委員会など集まって、議論をしていただいて中身を詰めていくのですか。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 委員会という形ではなく、業者にプロポーザルで委託をすることになりますが、その過程で子育ての専門家や、子育て支援をされている方に随時意見を聞き、皆さんの意見を取り入れながら進めていく形でと考えております。 |
| 委　　員 | 今のは、先ほど説明はなかったですが、5 ページの 22 番の星印のところとあわせて説明いただくとわかりやすかったと思います。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 先ほど説明しました、あぐりの丘の分については、5 ページ 22 番に記載しております全天候型子ども遊具施設の基本計画策定費 1,000 万を計上しております。これは全天候型の子ども遊具施設をあぐりの丘に建設するための基本計画策定に係る予算です。 |
| 委　　員 | 以前、市長から、あぐりの丘を何か子どもが使えるようにアイデアはな |

| | |
|---|---|
| | いですかとか言われまして、実は、8つほど遊ぶ道具を考えているんです。 |
| 市　　長 | ぜひお願いします。さきほど少しお話ししたように、あぐりの丘だけではないので、少しタイプの違ったものも整備できないかと検討していますので、アイデアがあれば、ぜひよろしくお願いします。 |
| 委　　員 | これは、あぐりの丘のように大型のところを整備していくということですか。例えば、市中の小さな公園なども手をつけていかれるということではないですか。 |
| 市　　長 | 市中の小さな公園というよりも、むしろ要望があるのは、少し大型なという言い方がいいのかどうかわかりませんが、市内の広い範囲の人たちが遊びに連れていけるような場所がないかという要望がずっとあっていて、それは、私たちが子育てしているころからあった課題で、長崎のまちにとっては、ある意味、長年の課題の１つでもあるので、どこか１カ所つくれば終わりということではないと思うんです。求められているのは、ただ小さい公園を整備すればいいという話でもない感じですね。 |
| 市　　長 | 野母崎の恐竜博物館あたりも博物館だけではなく、少し広々した中で遊ばせられるような環境をつくれないかということも検討したりしています。何カ所かできればいいなという感じです。 |
| 委　　員 | 12ページの主な取り組みの中の「こどもセンター」について、今から基本構想・基本計画を策定すると書いてありますが、目的や、どんなものなのかわかる範囲で教えていただきたい。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | まちなかに「こどもセンター」をつくるということで長年懸案事項となっており、今年度、重点プロジェクトに位置づけております。これから皆さんのご意見を聞きながら、子育てしやすいまちになるよう、場所も含めて検討していきたいと考えています。 |
| 委　　員 | 中身がまだよくわからないのですが、発達障害の子どもたちの治療や療育などができるようなこどもセンターですか、子育て全体なのですか。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | そういうご意見をたくさんいただいている状況もあるので、その意見も聞きながら、機能についても今から進めていきます。 |

| | |
|---|---|
| 市　　長 | 以前、こどもセンターについて、関係者の皆さんに集まっていただき、いろいろ議論いただく中で、出てきた提案の中では、子育て支援センターの中核になるような中核的子育て支援センターという考え方も出てきているんですが、市庁舎の建て替えや、いろんな状況もあり、その中で、そういう相談機能や、健診などの健康の面、あるいは遊びの面や、子育て支援的な機能など、いろいろな要素が考えられるので、場所も絡めながら、例えば、先ほどお話のあった発達障害などは、今ハートセンターの中にありますが、ハートセンターの中での拡充という形も当然あり得ますし、場所と機能をよく整理しながら進めたいと思います。<br>本来であれば、この機能をどこにどうするのかと考えるのが普通だと思いますが、今の時期は場所なども密接に絡んでいるため、幾つかの地域の中で、これは例えばハートセンターで引き続きやりましょうとか、それは市役所の近くでやりましょうとか、そういう形になるのかもしれないので、説明しにくい段階なんですが、そういった場所とも絡めた整備をどのようにしたらいいのかということを、議論をするところから始めたいと思います。 |
| 市　　長 | ほかに何かございますか。令和元年度にどういう予算に反映されているのか、大事な部分でもあるので、ご質問がございましたらお願いします。<br>よろしいですか。では、次に進みたいと思います。<br>続きまして、ウ「長崎県子どもの生活に関する実態調査と平成 31 年度の全国学力・学習状況調査の報告について」事務局から説明をお願いします。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 資料3をご覧ください。昨年度、長崎県が県内の子どもの生活状況と現行の支援制度の課題等を把握し、より効果的に子どもの貧困対策等を推進するため、長崎県子どもの生活に関する実態調査を実施しました。このうち長崎市分について情報提供がありましたので、内容を説明いたします。<br>資料1ページ、調査対象は県内の小学５年生及び中学２年生の子どもとその保護者で、対象者数は小学５年生が4,665人で、中学２年生が4,664人で、子どもと保護者あわせて1万8,658人。そのうち有効回答数は1万7,890人で、回収率95.9％でした。このうち長崎市内の対象者数は小学５年生が464人、中学２年生が446人で、子どもと保護者あわせて1,820人。有効回答数は1,757人で、回収率96.5％でした。<br>2ページをご覧ください。今回の調査において算出された長崎県の所得 |

| | |
|---|---|
| | 階層を分ける値は、97.2万円となっています。厚生労働省が平成28年の調査により発表した子どもの貧困線とは調査対象世帯所得の把握の方法等が異なるため、比較することはできませんが、その際の貧困線は122万円となっています。なお、所得が97.2万円を下回る世帯は、表の世帯区分２のⅡ層ですが、この割合は県で11.2%、長崎市では10.2%となっています。<br>資料３ページには、今回の調査における家族形態ごとの世帯割合を記載しておりますが、ひとり親世帯であるＡ層は、県では15.8%、市では16.2%となっています。なお、今回の調査のうち、長崎市のみの結果を見る場合、サンプル数が多くないため、特に貧困線を下回る世帯は各学年で40世帯、ひとり親世帯も小学５年生で61世帯、中学２年生で80世帯しかおらず、今回の調査結果をもって、長崎市の貧困世帯や、ひとり親世帯にはこういう傾向があるとは一概には言えませんが、長崎県全体の調査結果と大きく傾向が異なる設問はほとんどありませんでした。<br>資料４ページには、今回の調査における世帯収入の分布を掲載しておりますのでご参照ください。<br>資料５ページからは、アンケート調査結果のうち、主な設問について記載しております。そのうち、長崎県全体の結果及び長崎市の結果について主な傾向をご報告いたしますが、説明に当たり、所得階層区分については、貧困線97.2万円以上の世帯をⅠ層、貧困線下回る世帯をⅡ層とし、また、家族形態区分については、ひとり親世帯をＡ層、それ以外をＢ層として説明いたします。<br>まず（１）経済状況ですが、資料7ページをご覧ください。現在の暮らしについては、全体の４割以上の世帯が大変苦しい、やや苦しいと感じており、特にⅡ層では、その割合が県で77.1%、市では85%に上っています。また、家計の状況としても赤字であり、「借金をして生活をしている」と「赤字であり貯蓄を取り崩している」もあわせると、Ⅱ層における赤字の家計は県で63.2%、市で72.5%となっています。このことが子どもの生活に直接影響することが考えられ、8ページに記載のとおり、Ⅱ層では必要な食料品が買えなかった経験や、電気、ガス、水道がとまった経験、医療機関を受診できなかった経験がある世帯が、１割から２割程度存在しています。また、子どもが希望したのにできなかったこととして、本や絵本が買えなかった、お小遣いを渡せなかった、習い事に通わせられなかったといった経験がある世帯がⅡ層やＡ層において高くなっています。<br>また、資料9ページに記載のとおり、就学援助費や貸付制度など、各種支援制度を知らない世帯がⅡ層やＡ層にも一定数存在しており、利用可能であっても、利用に至っていない世帯が存在する可能性が考えられます。 |

| | |
|---|---|
| | 次に、10ページをご覧ください。<br>（２）生活環境においては、保護者の収入や家族形態により、子どもの規則的な生活習慣に差が見られます。特に、子どもだけで夜間に留守番をさせることがある世帯が、小学5年生の保護者においてＡ層で、県は15.6％、市では16.4％、全体としても１割以上存在します。また、毎日の歯磨きの頻度について、１日３回以上歯磨きをしていると答えた子どもが、長崎市の小学5年生では、Ⅱ層で30％、Ａ層で41％、全体でも48.3％と、県全体の結果と比較して低い傾向がある上、資料11ページのとおり、虫歯はあるが治療していない割合がⅡ層やＡ層で高くなっています。<br>次に、資料12ページ（３）教育環境については、所得階層や家族形態により、子どもが進学を希望する学校段階に差が生じており、これは保護者が期待する子どもの学校段階とほぼ一致しています。また、全体で見ると、保護者の学歴によって、その子どもに期待する進学先についても差が生じる傾向があります。<br>さらに、資料13ページのとおり、学校での勉強がわかると回答した子どもの割合が全体では７割を超えていますが、Ⅱ層で県は66.2％、市では57.5％、Ａ層で県が69.5％、市では58.8％と低くなっており、家庭環境が学力に影響を与えています。<br>次に、（４）社会環境について、資料15ページをご覧ください。<br>保護者の回答として、大きな悩みを抱えている割合が、Ⅱ層Ⅰ層ともに２割前後と高くなっている一方、相談できる人がいる割合がどちらも低くなっており、所得階層や家族形態により保護者の社会的孤立に差が生じています。<br>次に、資料16ページの（5）心身への影響については、保護者の回答として、将来に希望を持っているや、幸せだと思うの割合がⅡ層・Ａ層ともに低く、また、子どもの回答として、自分にはいいところがあると思う割合が、Ⅱ層・Ａ層で低くなっており、所得階層や家族形態により保護者の気持ちの不安定さや子どもの自己肯定感に差が生じていることがわかります。<br>今回の調査を踏まえると、子どもの貧困対策の解決のためには、子どもへの直接的な支援だけでなく、保護者に対する支援が必要であると考えられます。今年度は、まず各種支援制度を知らない世帯が一定数いたことから、児童扶養手当の対象者全員に対し、ひとり親世帯に向けた支援をまとめた冊子を配付するなどして周知に努めております。今後は、各関係各課とも連携して、今年度示される予定の国の新たな貧困対策大綱や、それを受けて、来年度に長崎県が策定予定の第２期の長崎県子ども貧困対策推進 |

| | |
|---|---|
| | 方針の内容を踏まえ、長崎市としても、子どもの貧困対策に係る計画の策定を行いたいと考えております。<br>　なお、資料 17 ページに、子どもの貧困に関する大綱、長崎県子どもへの貧困対策推進方針における施策と類似する長崎市の施策をまとめておりますのでご参照ください。説明は以上です。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | 　平成31年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について説明させていただきます。資料⑤の１ページをご覧ください。<br>　１調査結果の概要ですが、調査5項目あり、5項目中、中学校の2項目が国語、数学が全国平均を上回りまして、中学校1項目、それから、小学校の2項目の国語と算数については全国平均を下回る結果となりました。特に小学校において、国語のマイナス3ポイントということで、さらなる国語改善の必要性が浮き彫りになった結果となっているところです。その下の各市町の状況については、プラスが全国平均以上の場合の表示ですが、ご覧のとおり、長与町は5項目全てがプラスということで、わかりやすい結果となっているところです。<br>　2ページをご覧ください。こちらには、学習状況や生活習慣の調査結果について掲載しています。1番「人の役に立つ人間になりたい」、3番「いじめはいけないことだと思う」、それから、4番「先生はよいところを認めてくれる」は、例年どおり全国平均より高い評価となっています。最も大きな変容の1つに6番「将来の夢や目標を持っている」が上げられます。この項目は昨年度、一昨年度と小学校、中学校、いずれも全国平均を下回っておりましたが、今年度は、小中ともに全国平均を上回り、先ほども話がありましたが、この会議の中で協議を進めてきたり、重点施策で進めてきたキャリア教育の成果があらわれる結果となっていることをうれしく思っているところです。<br>　3 ページをご覧ください。児童生徒質問紙と学力の関係について一定の関係が見られるものについて、教科の平均正答率とのクロス分析を掲載しております。サンプル数は小学校６年生が約 3,100 人。中学校３年生が約 2,800 人のデータです。子どもの生活に関する調査項目について抽出し掲載しておりますが、３ページには「朝食を毎日食べているか」という項目について。それから、４ページは「毎日同じくらいの時間に寝ているか」５ページは「同じくらいの時刻に起きているか」、６ページは「家で自分で計画を立てて勉強しているか」、最後の７ページには「家庭学習の時間について学力との相関関係について」グラフ化していますが、いずれの項目についても、基本的な生活習慣、学習習慣が身についているものほど教 |

| | |
|---|---|
| | 科の平均正答率が高いことが、このグラフでうかがい知れるところです。貧困の状況にある子ども、家庭環境が厳しい子どもは、さまざまな事情により学習意欲がそがれやすい環境にあることは前々から言われているところですが、やはり保護者がダブルワーク、トリプルワークであったりして、朝も夜も家で１人で過ごさなければならない子どもたちが、どうしたら「早寝早起き朝御飯」ができ、学びに気持ちが向かっていけるのかについて問われている結果になっているのではないかと思うところです。説明は以上です。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 資料６についてご説明させていただきます。<br>今説明させていただいた「全国学力・学習状況調査結果」と、「子どもの生活に関する実態調査結果」で類似している設問をまとめたものです。大きく２つ、「規則正しい生活をしている方が勉強がわかる（正答率が高い）」というところと、裏面の「学校の授業以外に勉強する方が勉強がわかる（正答率が高い）」が類似する項目ということでまとめています。説明は以上です。 |
| 市　　長 | 子どもの生活に関する長崎県の実態調査の結果と学力学習状況調査の結果の報告がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。 |
| 委　　員 | 資料３の長崎県子どもの生活に関する実態調査の概要の９ページで、支援制度を知らない世帯が一定数存在する、この率が非常に高いという気がしますが、先ほどのご説明では、広く知らしめるように方策をとっていきたいということでしたが、具体的にはどのような方法で取り組まれるのでしょうか。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 対象の方に「ひとり家庭の皆さんへ」という市の施策を詳しく記載したものを配付しています。これを見て「こういう支援について聞きたい」など早速質問なども受けています。こういったところで周知に努めていきたいと思います。そのほか、ホームページや広報ながさきで支援制度について、随時周知しているところです。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | 就学援助については、学校を通して全児童生徒の保護者に配付いただいており、県の状況と比べれば、長崎市の「知らない」という方が少ない状況です。そういった効果があらわれているとは思いますが、その中でも、 |

| | |
|---|---|
| | Ⅱ層でＡ層に合致されるような方、支援が必要な世帯の方で知らない方がいる場合もありますので、学校を通し、ご協力をいただきながら、一層の周知に努めたいと思います。 |
| 委　　員 | 広報ながさきなどは、自治会との接触が強くないと、行き渡ってないところというか、すくい上げてないところというのはあるのでしょうね。 |
| 市　　長 | そうですね。広報ながさきは今の若い人はあまり読まないですよね。やはり若いお母さんたちには別の手段を使わないといけないですね。 |
| 委　　員 | 聞いた話ではかなり生活が苦しい家庭でも、お母さん方がスマホを持っている率は非常に高いそうです。というのが、最近はリアルタイムで、この日の何時から何時まで勤められないかなどの情報をスマホでキャッチする傾向が高いということです。<br>市の広報でフェイスブック等を活用されているのを目にしますが、スマホなどのコマーシャルでどんどん向こうから勝手に送り込んでくる情報があるので、何かそういうものを利用すると広報になるのではないかという気がします。 |
| 市　　長 | 9ページの就学援助や児童扶養手当など直接支援になる制度については、特にそのⅡ層とＡ層の部分というのは、知らない人はあまりいなかったりして、この辺は一定伝わっている部分はあるのかなという感じで、それ以外の下のほうになっていくと、ある意味、関心の問題になっていくんだろうと思います。やはり少し上がってきていますよね。 |
| 市　　長 | 子どもの健診などもそうですが、健診に来る人はいいけど、来ない人、家に行っても会えない人とどうアクセスするかというのが一番の課題ですよね。ただ、この児童扶養手当や就学援助については、説明があったように、一定周知の効果は出ているという話ですね。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 児童扶養手当のⅡ層の方をご覧いただきたいんですが、やはり必要な方に必要な支援制度をお知らせするということが大切だと思いますが、ここの長崎市のところで「知らない」という方が０％だったということで、一定周知の効果は出ているかと思います。 |
| 市　　長 | このテーマは子どもの貧困ということで、これまでも少し議論してきた |

| | |
|---|---|
| | 分でありますけれども、意見交換にもかかわるようなテーマでもあります。何か質問やご意見等ありましたらお願いします。 |
| 委　　員 | やはり貧困と学力の関係というのが一定程度あるわけですが、最近、自治体によって名前はさまざまですが、スタディクーポンという形で、塾に行ける分だけのクーポン券などの取組みがあります。先ほどの調査結果でも塾に行っている人はちょっと少ないですよね。長崎市ではそういう取り組みはありませんか。 |
| 市　　長 | 生活保護を受けられているご家庭の子どもたち、特に受験世代の子どもたちは、市内5カ所ぐらいそういう勉強するところがあります。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 学習支援事業という形で展開しており、市内では5カ所で実施しています。中央部に中央会場をつくり、より皆さんが来やすいようにサテライトのような感じで、南部と北部と東部に設置をしているところです。 |
| 委　　員 | それは無料ですか。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | もちろん無料です。 |
| 市　　長 | 最初は１カ所から始めたんですが、受験した子どもたちの合格率も高くて、それで、もう少し行きやすくなるようにということで箇所を増やして、現在は５カ所です。 |
| 委　　員 | 学習がわかるようになると、また勉強も楽しくなる。意欲も高まっていくのかな。この学力テストの数字に反映するかはわかりませんが、いいのかなと思います。 |
| 委　　員 | それは学校の先生に勧められて行くという形ですか。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | もちろん教育委員会とも連携しています。<br>この事業は生活困窮者自立支援法に基づいて実施しており、ここでいうⅡ層の方々などはもちろん対象になります。教育委員会、特に教育研究所を中心に、いろいろ困り事を抱えた方々などを主に対象としていくことになりますが、いわゆる準要保護世帯の方については、学校の校長会などで |

| | |
|---|---|
| | 話をさせていただき、情報が下におりていくような形になっています。進路相談の時などに、対象者と思われる方々に、その学校の先生からご教示いただいて、こちらの利用につながるという形です。 |
| 委　　員 | そこでは誰が勉強を教えているんですか。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | この事業は委託で実施していますが、教えている方は主に元学校の先生などです。それから、そこは子どもたちの居場所的なところにもなるため、子どもたちに近い世代である大学生の方です。そういう人たちに教えてもらいながら、いろんなことを教わりながら、わいわいやっているというところです。子どもの目線にたったところでの支援というのが大学生の効果で、専門的なところについては、元学校の先生の知見で支援をしていくというものです。 |
| 委　　員 | 学生はボランティアという形ですか。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 有償ボランティアで、大学生の皆さんについては交通費程度のものです。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | 退職された先生方に携わっていただいて、子どもたちの関係も良好で、また行きたいという子どもたちも結構多いです。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | 学校教育の面では、先ほどの支援についての情報を担任にも教え、三者面談の時に個別に要保護家庭などの保護者に紹介をして、支援につながったという子どももおりました。<br>それから、寺子屋事業といって、今、全ての学校で放課後、あるいは、休み中の補充学習の取り組みを行っておりますが、地域人材の方が実施するパターン、大学生のボランティア、それから、大学生の蓄積型の単位として来ているパターンなど、それぞれの学校の状況に応じて、いろいろな取り組みが行われているところです。<br>公立でいわゆる所得格差にかかわらず、学力を保証したいという思いで各学校もいろんな取組みを行っている現状です。<br>しかし、先ほどの資料5、学習状況の調査の2ページ、長崎の子の特徴の中で、8番「家で計画的な勉強をする」や、9番「2時間以上勉強する（中学校）」は全国よりマイナス7.2となっています。ここをどう上げていくのかというところも大きな課題の一つであり、補充学習も含めて、どういう |

| | |
|---|---|
| | 形で取り組んでいかなければならないか考えているところです。 |
| 市　　長 | 今、県庁に子どもたちが勉強に行っている。あれは中学生ですか、高校生ですか。 |
| 委　　員 | 高校生が多いですね。図書館からだいぶん県庁のほうに流れている。 |
| 市　　長 | 図書館は満席で入れないですね。 |
| 委　　員 | 県庁にいくつか席があるので、図書館がわりに使っているんです。 |
| 市　　長 | 長崎だけでなく、全国的にニーズが多くて、あれはすごく気になっているんですが、そういう場所は、社会的にも何か用意しないといけないぐらいのレベルになっているのではないかというぐらい多いですね。子どもたちが家で勉強せずに外で勉強している。 |
| 委　　員 | 大学生は本当にそうですよね。 |
| 市　　長 | カフェやファミレスなど。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | 市民会館の１階でも勉強してますよ。 |
| 市　　長 | 市民会館などは、どんどんそういうふうにオープンにして使ってもらったら、場所的にもいいからいいんじゃないかなと思います。 |
| 委　　員 | みんなそういう勉強する場所を探していますよね。 |
| 市　　長 | この前、理由を聞いたら家は誘惑が多いという。テレビがあったり、兄弟が話しかけてきたり、いろいろ落ちついて勉強できない。教え合うこともできるからね。昔と違いますね。 |
| 委　　員 | 新庁舎は考えてつくらないといけないんじゃないですか。 |
| 市　　長 | 新庁舎はスペース的にそんなにとれないかもしれないですけど、市民会館などは、場所的にいいから、まずそういうのを少し積極的に提供するような感じでもいいんじゃないかと思う。 |

| | |
|---|---|
| 委　　員 | 人を充てれば、それだけ経費はかかるわけだけど、場所だけであれば。 |
| 委　　員 | そういう場所に食事を提供できるようなこともですね。ボランティアの人が集まって子ども食堂をやるみたいなですね。 |
| 市　　長 | そうですね。中学生だと地域ごとにふれあいセンターみたいなところで、そういう場所になったらと思います。 |
| 委　　員 | 子どもの貧困に関する大綱で４つの支援の柱がありますよね。数字で見てもわかることはわかるんですが、棒グラフなどでも、レベルをレーダーチャートみたいにして、この貧困のタイプを見てみたいなと思います。そうすると、４つだと正方形でなかなか難しいので、あと１項目増やして五角形にして、中心からレーダーチャートみたいにして、この家庭はここがへこんでいるよとか。１項目、例えば、先ほどのこのデータだと、社会との関係性がとれてないというのもあるので、社会関係支援、あるいは、別の意味で子育て支援とか。５つにすると五角形でデータチャートが割といい形でできるので、その数字を５段階などに分けていくと、もう少しパターンとしてわかりやすいかなと思います。だんだん膨らんだとか、しぼんだとか変化が形として表せる。類型もできるかもしれないと思います。 |
| 市　　長 | それは個人と全体ということですか。 |
| 委　　員 | 個人と全体ですよね。 |
| 市　　長 | なるほど、数字がでればわかりやすいですね。 |
| 委　　員 | 地域包括センターは貧困とは特にかかわりはないわけですか。やはり障害者、高齢者ですか。 |
| 市　　長 | 地域包括支援センターは、メインは高齢者の方なんですが、長崎市の場合は、いくつか総合的に身障者だったり、貧困だったり、いろんな課題を抱えている方たちが相談に来るというのも受け付けるセンターが、今2カ所か、3カ所かあるんですけど、それと並行して、子どものための包括センターと言っているんですが、要するに、子どもの相談を受ける総合相談のようなそういう場所についても設置をということになっているので、そ |

| | |
|---|---|
| | ういうところの充実は、今、図らなければならない1つの大きなテーマです。子どものための相談はそこで受け付けるという形になっています。 |
| 委　　員 | それは先ほど出たこどもセンターとは、また別にということですか。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | こどもセンターとは別です。今、総合事務所やこども健康課で、子どもの健康面などを見ていますが、そういうところを包括の方にして、こどもセンターとは別で考えていますが、まだ、こどもセンターの機能を考える上で、そこも含めた形になるのかというようなことは協議の中に出てくるのかなと思います。 |
| 委　　員 | 子どものいろんな支援や相談を受ける時にいろいろ気づくことは、子どもの発達の支援だけと思って相談を受けていたら、実は貧困もあったり、シングル家庭だったり、ちょっと学力も低いなど、さまざまな問題を1人の子どもで3つも4つも課題を抱えてるケースがとても多いんです。そうすると、1人の子どもを救うため、発達の相談はこちら、母親の就労支援にはこちらなど、手間取ってしまうことが結構今までもあったんですね。<br>愛知県ですか。子どもの相談を1つに全部まとめて、病院も病院のところに相談に行くと、全部そこからいろんなとこにつなげてもらえるということで、素早く支援というか、子どもを親も含めてまとめて救えるというようなスタイルの自治体も見たことがあって、これはいいなと思ったんです。今、別々に子どものことで考えておられるのであれば、もしよかったら、子どもを救うために、1つの大きなものをつくっていくっていう方向があってもいいのかなと、ちょっと今思いました。 |
| 委　　員 | 場所などとても大変なので、ネットワークとして1つになって、情報がそこへ1本化されていくといいのでは。 |
| 市　　長 | おっしゃるように、入り口はなるべくシンプルで、とりあえず、ここに行けば、ちゃんと相談に乗ってくれるところを紹介してくれるとか、そういう形のネットワークは絶対必要ですよね。入り口が最初からわからなかったら、行かなくなるので、そこは非常に重要なポイントだと思います。 |
| 委　　員 | どこかの入り口行っても、やっぱり結局は同じで１つにまとめられる。 |
| 市　　長 | そうですね。それは本当に大事なことですね。そのあたりはこどもセン |

| | |
|---|---|
| | ターの検討の中でもすごく大事な要素なので、しっかり取り入れていきたいと思います。 |
| 市　　長 | ほかにありませんか。なければ、今のことも踏まえながら、次の２の意見交換事項に移りたいと思います。<br>今後のテーマについてですが、今年度、議題としたいテーマや意見等について、少し意見交換をしてみたいと思いますが、何か案がある方、あるいは、事務局からでも、こういうのも議論してもらえたらというようなことも含めて、自由に出していただけたらと思いますが、いかがですか。 |
| 委　　員 | テーマになるかどうかは。先日開催された中学生議会の後半のまちづくりについて目を通していたら、結構いいことを考えているなと思いました。こういう事業を起こしたら、こういうことをしたらなどいろいろあって、何かこういうことを、実際に少しでも実現に近づけるような何かないかなと思って。 |
| 委　　員 | やはり人口問題は中学生も随分考えているみたいですね。 |
| 教　育　長 | 事前にある程度、知識として状況を説明させていただいています。 |
| 委　　員 | なるほど、状況説明をしたんですね。 |
| 市　　長 | 子どもたちの提案については、事業化、予算化している分はありますよね。小学生については、既にこれまで毎年実施している「市長への提案事業」で実現化できるものは実現していくということで、子どもごみ袋を予算化しました。 |
| 教　育　長 | 小学生はアイデアボックスですね。中学生議会でそういう提案がありました。 |
| 市　　長 | そういう意味では、その小学生の分、中学生の分も議論してきた長崎ＬＯＶＥＲＳを育てるっていう分の中の一環ということですよね。形になってきている。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 提案ですが、場所の切れ目のない支援というのをテーマにしてはいかがかなと考えております。 |

| | |
|---|---|
| | 現在、子どもはみんなで育てるということで、長崎市としては子育てしやすいまちをめざしており、子どもの成長段階に応じた時間の切れ目のない子育て支援ということで、妊婦の一般健診から始まって、乳幼児の健診や、子どもに対する医療費補助を小学校卒業までから中学校卒業までに拡大したり、子育て家庭が気軽に集まって、遊びや相談という情報交換の場ということで、子育て支援センターの設置という取組み、時間の切れ目のない支援を行っています。<br>もう一つの視点として、地域や商店街、職場で、どこに行っても子育てを応援してもらえるような場所の切れ目のない支援というところも充実させる必要があると考えています。<br>例えば、今の取組みとしては、公共施設や民間の施設で、授乳スペースやおむつの替えのスペースなど、乳幼児に開放できる赤ちゃんの駅を設置していますが、民間企業の協力が得られるように、今、認定制度などをつくっているところです。こういった地域や商店街、職場など市民の皆さんから子育てを応援していただくように、どのような取組みが必要かという視点でご意見をいただけたらどうかと思っています。 |
| 市　　長 | 今の子ども食堂とかそういったものも全部含めるんですよね。 |
| 市　　長 | ほかにもこういうのを議論してみたいというアイデアはありませんか。今の提案についてのご意見でもいいですし。 |
| 委　　員 | それもいいかもしれませんね。生まれたときからずっと、場所というのはこういうふうなのがあるよ。幼稚園、保育園に行ったらこうなっている。小学生はこういう支援があると。少なくとも高校卒業ぐらいまで、どういうルートがあるみたいな見通しを。1本じゃないかもしれないですよね。先がわからない、前が見えないというのが一番不安ですよね。それはいいのかもしれませんね。 |
| 委　　員 | 逆に、どこで切れているかということをはっきりさせれば、切れ目のないのがわかるんですよね。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | その前段の話もあった、県庁に勉強をしに高校生がよく行ってることや、そういったところなども事例の1つにはなるのかなと考えてるんですが、場所の切れ目がないというか、そういった場所を提供するというところで。 |

| | |
|---|---|
| 委　　員 | 休みの日も多いんですよ。 |
| 市　　長 | 以前はあまりなかった現象ではありますよね。 |
| 委　　員 | 働き方改革にも関係してくると思うんですけど、思い切って、二学期制度はどうなのかということも考えてみて。二学期制度にすると、中間テストも１つなくなるし、期末テストもなくなる。<br>道徳に英語に授業も増えてますよね。することは増えていて変わらない中でやっていかないといけない先生方の負担が大きい。学力向上の面でも、それがプラスになるのかと思いますね。先生方の働き方改革のプラスになるのかマイナスになるのか、そこをちょっと検証して、本当にそこを考えてみることも大事な時期にきているのではないかなという気がします。 |
| 委　　員 | 考えるだけでもですね。 |
| 教　育　長 | 小中学校がエアコン入りましたので、そういう意味では少し柔軟にできる環境にはなってきている。 |
| 委　　員 | 夏休みが長過ぎるという保護者の声もありますね。 |
| 委　　員 | 県内で二学期制は実施していますか。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | 大村市と佐世保市ですよね。大村市が今後三学期制に戻すんです。 |
| 委　　員 | 戻したのはなぜですか。保護者からなんですか。 |
| 委　　員 | その辺も含めて議論してみてもいいかも。 |
| 委　　員 | 議論はおもしろそうですよね。 |
| 市　　長 | 三学期制に戻すのはなぜですか。うまくいなかった理由は何ですか。 |
| 委　　員 | 県全体がしてないからではないですか。いろんな行事などが。 |

| | |
|---|---|
| 事　務　局<br>（教育委員会） | いろいろ工夫をされたんですけどね。通知表を渡さないで面談をしてということをしたりですね。おっしゃるように試験を少なくしたりする中、意外と保護者には評判はよくなくて、もっと頻繁に試験をしてほしいとか、評価はきちっとやっぱり学期末にしてほしいとかいうこともあって。ですから、いろんな事情でもとに戻そうという。結構長くされてたんですけど。 |
| 委　　員 | 先生方はどうだったんですか。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | 私が知っている教員の評判は非常によかったです。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | 教員の評判は悪くはなかったですね。<br>三学期制でも中間テストは無くしてる学校も結構あります。<br>東京では定期テストを全部なくした学校などもあり、結構、今、話題になっていますが、授業の中で一斉に小テストなどを繰り返しながら、子どもたちの見取りをしっかりやっていこうという感じです。<br>働き方改革はテストだけではないんですが、いろんなものが絡み合いながら、なかなか職員の負担軽減になってないところがありますので、何らかの手は打つことは必要なだとは思います。二学期制、三学期制、賛否両論あり、戻すところもあるのですね。 |
| 委　　員 | 二学期制は先生方にはよかったと。 |
| 委　　員 | 一番いいのは、子どもと先生にいいことが一番ではないですか。保護者は学校に行ってるわけではないし。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | ただ、長期休業についても、やはり子ども目線でいけば、長くて楽しいというのがあるかもしれない。親御さんは早く学校行ってくれればいいのにと。結局、さきほどの場所ではないですが、今、共働き世帯が増えてきた中で、その昼間の子どもたちの過ごし方の場所が非常に課題になっているとか。かつては夏休みはどこかの公園に行けば、みんな集まってという光景が見られましたが、今ほとんどないですよね。そんな中、家で一人で過ごしている子どもたちが相当いるんじゃないかと。それが長期間というのが時代の中でどうなんだろうと。エアコンがついたこの機にというのは、いろいろ考えていい時期になっているのかもしれないですね。 |

| | |
|---|---|
| 市　　長 | 夏休みも学校に出てきて、学校で勉強していいよというふうになっていますか。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | 中学校は図書室でも普通教室でも結構勉強していますね。<br>図書室に入らないぐらいの子どもたちが。 |
| 市　　長 | そうなんですか。エアコンがついたらますます増えますね。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | 部活動の後にそのまま残って学習をするというのは、もう流れができているけど、小学校ですよね。 |
| 委　　員 | 実際どうなんですか。道徳や英語など科目になってきますが。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | 先日も、校長会と教育委員会の懇談会をしたんですが、特に小学校については、このままではとてもじゃないけど授業日数が足りない、厳しいという中、管理規則で夏季休業期間を決めていますが、もうそこに踏み込んで、夏休みを少し短くしてもいいんじゃないかと。エアコンも入ったし。 |
| 教　育　長 | そこはちょっと議論したいとは思うんですけど。<br>そこは、働き方改革でいうと、授業日数は確保しないとと言いつつ、休日はしっかり休みましょうということで。 |
| 委　　員 | 実際とは矛盾してるんですよ。 |
| 市　　長 | 教育委員会の中で議論してもらっていい分と、総合教育会議だからできる部分ということはやはりあるので、そこのあたりも難しいですね。 |
| 市　　長 | 今までそのキャリア教育のような部分と平和教育の部分というのは、少しずつ形になってきているので、次のテーマについて、今年度、他に何かありませんか。 |
| 委　　員 | 漠然としたものなんですが、先日の中学生議会の総評で部長がおっしゃった、「いじめというのは今の問題で、まちづくりは未来のこと」というのが非常に印象に残っていまして、総合教育会議の中でも、例えば、平和学習のことは今の問題のことだと思うんですが、子どもたちが持っている |

| | |
|---|---|
| | まちづくりに対する意見など、驚くほど現実的に考えていますから、そういう子どもたちの意見なり考えみたいなものを、もっと吸い上げるようなやり方がないのかなという感じするんです。総合教育会議だからこそ場として。 |
| 市　　長 | 委員はもともとそういう思いがずっとあって、それが１つ、長崎のまちづくりの次の担い手を育てるというような形になっていって、ある意味、長崎ＬＯＶＥＲＳを育成するというような形になり、その中で、小学生はアイデアを募集する取組みがあるけど、中学生にはないので、中学生は子ども議会でアイデアを出してもらおうということで、今年初めて開催したのがさきほどの話です。アイデアの結実の１つなんですが、まだ始めたばかりで、ほかにもいろいろなやり方があるのかもしれない。<br>地域のコミュニティをつくっていく動きの中では、子どもたちを入れる地域も増えていて、子どもたちも結構、大人に全然負けてない良い意見を言うので、子どもたちが力になっている現実も結構出てきている。事業を１つすればいいというのではなく、むしろ、あちこちでそういう動きが出てくること自体が望ましい形なのかなという気がします。 |
| 委　　員 | それで、そういうものに大学生や若者が住みたいとか、まちづくりに参画したりとか、そういう大きな語り場的な何かそういうものがですね。 |
| 市　　長 | 資料２の10ページ、新規プロジェクトの表の２番目に、長崎若者プロジェクトがあって、若い人たちに「やっぱり長崎おもしろい」「住むなら長崎がいい」と言ってもらうための取り組みの中の１つなんですが、その２つ目に、若者がチャレンジできる場をつくるというのが、１つそのテーマになっていて、何らかまちづくりのチャレンジを自分たちでやって、言うだけじゃなくやって、失敗しても成功してもそれが成長につながるような、そういったことができる場が長崎にはあるというか、チャレンジできるというような仕組みを何かつくろうかというのが、これなんですね。<br>この中でも、小学生、中学生からもっと上の世代までチャレンジできるというのは、ぜひやっていきたいと思います。<br>今、「ギヴーダ」といって社会課題を解決したいという若い人がいたら、いろいろ応援をするのでうちでしないかという教育コミュニティがあり、情報やお金なども不要で、無料でしてくれるんですけど、そういう中で、そういう若い人たちが育っていくという仕組みです。中学生議会のときに、ギヴーダを紹介したんでしょう。 |

| | |
|---|---|
| 事　務　局<br>（教育委員会） | はい。ぜひ参加したいという子どももいて、「私は起業家になりますので、ぜひ、応募するときには、真っ先にファクスください」みたいな売り込みをする子どもが出てきたり、そういう子はたくさんいるんですね。 |
| 委　　員 | これまでキャリア教育で、長崎ＬＯＶＥＲＳ育成プログラムをつくって、その先を、この若者プロジェクトとつなげると。そこを今後やっぱり考えないと、長崎に残る方法がわからないと思うんですよね。そこをちょっとつなげたいなという。先ほどの切れ目のないキャリア教育にして。 |
| 市　　長 | そういう意味では、資料２の10ページの、こども元気プロジェクトの部分は、自然減の対策の1つであって、2つ目の若者プロジェクトは、若い人が長崎を選んでくれる、そういうまちの仕掛けをしていこうという中で、働く場所のことはよく出るんですが、働く場所だけあってもだめで、住む場所や楽しむ場所、遊ぶ場所、チャレンジできる場所というものがそろってることが大事じゃないかということで、この若者プロジェクトは楽しむとチャレンジをつくる。それから、住みよかは住むをつくる。それから、新産業は働くであったり、これ以外にも通常の分野で企業誘致をしたり、その分ともつなげながら働く場もつくっていくという４つの要素をもっと充実させて４年間取り組もうということで設定しています。<br>ですから、先ほど委員がおっしゃった部分というのは、長崎ＬＯＶＥＲＳの皆さん、若い世代、実際に長崎に住むかどうかを選ぶという年代になったときに選んでくれるように、あるいは、これに加えて移住の部分などにも力を入れているのは、やはり、帰ってくるという人たちも含めて増やしたいということで、人口減少対策につながるプロジェクトが多いという感じですね。 |
| 市　　長 | ほかに今年度、議論したいご意見。さきほどの場所の切れ目のない支援、長崎のまち全体で場所の切れ目のない支援をするためにどんなことができるのか。市役所だけでは絶対無理なので、まちも地域も企業も、いろんな皆さんに参画してもらって、子育てを応援してるよというふうにメッセージを出していくというような取り組みができないかということなんでしょうけれども、それについてはどうでしょうか。<br>おそらく、子ども食堂の話や、さっきの勉強する場所だとかいうようなことも含めた内容になるので、結構幅広い内容になるかもしれない。 |

| | |
|---|---|
| 教　育　長 | そうですね。今まで場所という視点、切り口では意識したことがないので、議論してもおもしろいかなという気もします。 |
| 市　　長 | どういうのがあるのかというのを調べてみるとおもしろいかもしれないですね。 |
| 委　　員 | 商工会議所のメンバーとしては、反省のするところなのですが、人手不足や人口流出のことなど、今の問題には皆さんよく問題意識持って研究されるのですが、中長期的、いわゆる子育てが大事だとか、教育が大事だというところに、なかなか商工会議所の目が向いていないというところがあります。<br>キャリア教育のことを商工会議所のメンバーにお願いする時、非常にそう感じたものですから、長崎サミットあたりでもぜひそのことの大切さを市長から言っていただきたいと思います。 |
| 委　　員 | アメリカの心理学者のペリーが40歳の公益性という、何かというと、幼児教育にたくさんの経費を注いでいる国ほど、早い話が、40歳で税金を納めているという。マイナスの公益性の人もいるわけですよね。生活保護とかですね。必要な人には、当然やらなきゃいけないんですけど、そういう調査があってですね。やっぱり幼児教育が大事だよという。そうすると、小学校にちゃんと行けて、中学校にちゃんと行けてという。やっぱり子育てのこの幼児教育のところは、とても大事だということ。 |
| 市　　長 | 教育という広く見ると、今の教育そのものが、日本の場合、特に同じ質の同じ人たちをつくっていくっていう、この枠の中に入りなさいというような感じの部分で、明治以来ずっとやってきた部分があって。それは、何か日本の伝統みたいに。クラブ活動を始めるとなるとかあるんでしょうけど、今グローバルな時代になったときに、もっと個々の持っている個性とか、能力を活かす中で、その組み合わせの中で解決力が増していくみたいな、そういう社会のあり方というのを確実に進んでいるところがあって、そういう意味では、答えのない問題を解く力というのをつけていかないといけない時代になっているという意味では、小中高の義務教育どうこうという話だけではなくて、やっぱり一生学ぶ、学ぼうと思ったら学べる仕組みなどがあって、再教育を受けてもう一回やり直せるとか、そういったようなことがすごく大事な時代になっている感じ。<br>根本的な話なので、ここでどうこうという話ではないが、教育そのもの |

| | |
|---|---|
| | が少し質を変えていかないといけない時代になっているんじゃないかなという感じはものすごくしますね。 |
| 委　　員 | 関連してよろしいですか。先ほどの報告で、資料５の2ページ、学習状況調査の結果の中で、7番が一番気になっていたんですが、「難しいことでも失敗を恐れず挑戦できる」が非常に低いですよね。これは幼少期の子育ての中で、自尊感情を十分に育てられてなくて、失敗すると怒られるという経験を何度も積んできて、学校教育の中でも周りと自分を比べて、自分はだめだとか、失敗を笑われたりなどという経験で、これがすごく落ち込んでるのではないかと思います。<br>これを上げるには、自信をつけさせるために、やはり自分はできるという自尊感情を高める必要がある。これは学校教育、小学校入学してからというよりは、もっと小さな、生まれてからすぐのころから自信をつけさせていくことが必要なので、愛着形成の問題もあるんですが、幼児教育の重要性をこの数値から私は感じていました。 |
| 市　　長 | なるほどね。これは今年度だけではなくてずっと低いんですか。 |
| 事　務　局<br>（教育委員会） | そうですね。この項目は常に課題としては上がっています。長崎の特徴ですね。 |
| 委　　員 | ちょっと難しい話をしていいでしょうか。<br>三つ子の魂百までという言葉がありますよね。昔の言葉だから、今でいうと満2歳。生まれてから1歳ぐらいで脳の神経細胞のつながりのシナプスが2兆個ぐらいになって、2歳がピークで、2兆4,000億個ぐらいになって、それから10歳ぐらいまでで成人レベルまで。生理学の言葉で刈り込みと言うんですが、養老孟司さんが言うのは、人間の可能性を最大にするために、要するに春に枝葉がぐんぐん伸びて、好きな形に刈り込みますよね。よく使うものは当然残るし、使わないものは刈り込まれていくということ。だから養老孟司さんも、言葉はしゃべれなくても、ちゃんとわかってるとおっしゃっていた。愛着、それから、自己肯定感など、褒められれば1歳でも2歳でも3歳でもやっぱりうれしいし、自信を持つんですよね。ですから、幼児教育のところは大事なんだろうと思うんですね。<br>養老孟司さんは、脳にクセができるという。自信のある子は自信など。そう言ってましたね。 |

| | |
|---|---|
| 市　　長 | 全然関係のない話ですが、マスコミの人たちと話をする時に、佐世保支局と長崎支局に赴任した時、明らかにその市民性が違うと。まちに行ってインタビューをすると、佐世保の人たちは、「私でいいの」とすぐ寄ってくる。長崎の人たちは、「いや、私はいいです」みたいな感じで逃げていく。だから佐世保市の方がインビューしやすいと言ってました。そういうことも含めた市民性みたいなことがあるのでしょうね。 |
| 市　　長 | やはり狭いまちで肩を寄せ合って、力あわせてやってきたまちなので、事務機能団結、くんちじゃないですけど、そういうのがベースになってるのもあるかもしれないですね。 |
| 委　　員 | 京都あたりはどうなのかなと思いますよね。何か似たようなところがあるんじゃないかなと。周りの目を気にするとか。 |
| 市　　長 | そうですよね。京都と長崎は少し似てるところはあるかもしれないですね。伝統があって内向きなところと、守るという意味があるのと、それから、先進的なものを取り入れるところ。 |
| 委　　員 | 支援センターに久しぶりに来ていたお母さんが、ぼろぼろ泣きながらお話をされたんです。あるとき、公園で一生懸命ダンスを踊っていた70歳ぐらいの方と出会って、その方の話をずっと聞いてたら、「子どもはね預かりものだよ」、「いつかは社会にお返しするんだよ」と言われた言葉がものすごく入ってきて、それがずっと忘れられないと。忘れられないけど現実といろんなことできつくなってきて、それで支援センターに来て思い出して話をされたんですが、そういう年代を越えたつながり、子育てを終えた人たちの温かい言葉、姑問題で苦労された方らしいんですけど、その経験が全部よかったとおっしゃっていたそうです。公園での立ち話だけど、それが自分の支えになっていると。そういうつながりって素晴らしいなとすごく教えられ、そういう立場に今から自分がなっていかないといけないなと思いました。 |
| 市　　長 | どれだけ都会になってもコミュニティがないと健全な暮らし、快適な暮らしになりえないので、東京であっても同じで、そういう意味では家庭が小さくなっているので、昔はおじいちゃんおばあちゃんが逃げ込みどころになっていたわけだけど、そういうのがなくなっているので、地域がそういう機能を活かしてくれるというのはすごく大事。そういう意味では、そ |

| | |
|---|---|
| | ういう場所、地域でどういう応援ができるのか大事。 |
| 市　　長 | 先ほどの一言が救われたという話は学校などでもたぶんあっていて、子どもたちが先生にかけられた一言で自信をつけたりなど、日常的にあるんだろうと思う。それの大人版なのだろう。 |
| 市　　長 | いろいろ話が出ましたが、今出た中で、場所の切れ目のない支援をやってみますか。どういう話になるか、基礎データがあるのかやってみないと分からないんですけど、次の回はこれについてもう少し整理したものを、全部は無理だと思いますが、ある程度整理したものをベースにしながら議論をしてみたいと思います。 |
| 市　　長 | 今後のテーマはそういうことにして、他に何かありますか。<br>では、次回の開催はまた改めて。 |
| 事　務　局<br>（市長部局） | 10 月ぐらいになるかなと。今の場所の切れ目のないという部分で、私たちも少し把握できる素材を集める時間をいただきたいと思います。 |
| 市　　長 | 年内、10 月、11 月ぐらいには 1 回開催したいと思います。<br>では、これで令和元年度 1 回目の長崎市総合教育会議を終了します。<br><br>【16：30 閉会】 |